

■■■■■■■■■■■紹介と提言■■■■■■■■■■■

国際ビデオライブラリーフォーラム

——類縁活動団体との相互連絡を——

小川 千代子

昭和61年10月 8日(休)、9日(休)の2日間にわたり、財団法人放送番組センターの主催で国際ビデオライブラリーフォーラム「映像で伝える未来へのメッセージ——公共ライブラリーの実現に向けて——」が開かれた。これについてコーディネーター・常磐大学教授後藤和彦氏にたずねたところ、以下のような回答をいただいたので、紹介したい。

1. 国際ビデオフォーラムについて

国際ビデオフォーラムは、後藤氏が代表をつとめる放送文化財保存問題研究会が、大阪のABC放送から協力を申し入れられて、結局NHKと民放全体が運営資金を出している財団法人放送番組センターの主催というかたちにして開催したものである。

2. 公共ライブラリー化問題をとりまく現状  
後藤氏らは、ここ4年ほど放送番組の公開ライブラリー化の問題点の検討とキャンペーンを続けてきたが、ようやく省庁も含めてあちこちが動き出した。目下のところ、番組センターの機能を拡大して公開ライブラリー化するという方向で放送界は動いており、郵政省はまた別の検討を始めている。

今回のフォーラムについて、民間放送連盟が出している雑誌『月刊民放』1月号に特集が組まれているので、内容についてはこちらを参照されたい。

3. FIAT——国際映像ライブラリー機構について

FIATは、Federation internationale des

国際ビデオライブラリーフォーラムのプログラム概要

第1日 (非公開)		第2日	
於 ホテル霞友会館		於 TBSホール	
時刻	内 容	時刻	内 容
13:00	受付開始	13:00	開 会 主催者挨拶 諏訪 博 来賓挨拶 森島展一
13:30~14:30	オリエンテーション	13:15	記念講演 「記録と創造」 井上ひさし
14:45~16:45	第1分科会 「テレビ番組ライブラリーの問題点と未来への展望」 座 長 野崎 茂 参加24名	13:50	パネルディスカッション 「映像で伝える未来へのメッセージ——公共ライブラリーの実現に向けて——」 運営委員長挨拶 原 清 基調講演 アンヌ・ハンフォード 「欧米におけるビデオライブラリーの公共的使命」
14:45~16:45	第2分科会 「保存番組の創造的活用」 座 長 藤井 潔 参加22名		討 議 ■ コーディネーター 後藤和彦 ■ パネリスト サミュエル・サラット ディビッド・フランシス フランシス・ドニール 相田 洋 大山勝美 小島美子 志賀信夫 山田太一
16:45~17:00	コーヒーブレイク		
17:00~17:20	録再型レーザーディスク説明会		
17:25~18:25	合同討議		
18:30~19:30	懇 親 会	16:20	閉会のことば 原 清

archives de television の略で、ヨーロッパの放送局と、放送局外の公共機関(ライブラリーが主)がメンバーとなっており、どちらかという放送局の番組ライブラリーの共通課題の討議と情報交流のための場になっている。日本の放送局では目下のところ大阪ABCのみが正式メンバーとなっている。

なお、10月9日に配布されたパンフレットにFIATは「ヨーロッパの放送機関を中心に1977年に設立され、現在は36ヵ国40のテレビ局、公共ライブラリーが加盟している。映像資料が文化遺産として極めて貴重な価値を持つとの認識に立ち、その整備・保存・活用を通して国際交流をはかるとともに、加盟機関における教育や文化活動への映像資料の活用も進めている。またユネスコやEBU(ヨーロッパ放送連合)・ABU(アジア太平洋放送連合)等の国際機関とも協力関係にあり、共同で研究開発やシンポジウムを開いている」と説明されている。

さて、以上が後藤氏から提供を受けた情報のあらましであるが、パンフレットの中で「公共ライブラリー」又は単に「ライブラリー」と記されているところの意味は、英語に直せば明らかに「Archives」、つまり全史料協の『会報』や『アーキビスト』誌上では「文書館」と記しているところであろう。これまで筆者自身、「文書館」という言葉は「公文書館」よりは間口が広く、従って適用範囲が広いので良からうと考え、この「文書館」をArchivesの訳語として用いてきた。だが用済みの映像記録の保存・活用にあたる機関としてのアーカイヴス archives des televisionの訳語を、このフォーラムでは「ビデオライブラリー」としている。国内をみわたすと、ちょっと思いつくものだけでもこのビデオライブラリー問題に限らず、裁判記録保存問題では日弁連の司法制度調査会が、国鉄の資料保存問題では和光大学の原田勝正氏を中心として、それぞれの守備範囲内にある史料の保存運動を展開している。こうした運動が各々バラバラに保存の方法論や理念を構築していくと、先の「文書館」と「ライブラリー」というごとく、たかが用語ひとつにしても不統一となり、不便極

まりない状況が生まれてくるのではあるまいか。

今、ようやく各方面での史料保存運動が盛り上りを見せているところである。ぜひともこの時を逃すことなく互に連絡しあいたい。そしてせめて用語の統一を図ることで、共通の基盤を形成していきたいものである。それは、史料保存という100年、200年先を考える息の長い仕事の性質からみて、必須の活動であると信ずる。

<1987. 1. 19>

(東京大学百年史編集室)

### 新加入機関紹介

豊島区立郷土資料館

171 東京都豊島区西池袋2-37-4

大和市役所大和市史編纂係

242 大和市大鶴間1-1-1

尼崎市立地域研究資料館

660 尼崎市昭和通2-73

小山市立博物館

329-02 小山市乙女1-31-7

寒川町町史編纂室

253-01 神奈川県高座郡寒川町宮山165

神奈川大学常民文化研究所

221 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

浦和州市史編纂室

336 浦和市常盤6-4-4

名古屋市総務局企画部企画課

460 名古屋市中区三の丸3-1-1

姫路州市史編纂室

670 姫路市安田4-1

中央大学広報部大学史編纂課

192-03 八王子市東中野742-1

品川区立品川歴史館

140 東京都品川区大井6-11-1

明治大学歴史編さん資料室

101 東京都千代田区神田駿河台1-1

石川県立歴史博物館

920 金沢市出羽町3-1

町田市立自由民権資料館

194-01 町田市野津田897

佐倉市総務部総務課

285 佐倉市海隣寺町97